

令和4年度 実施事業の概要

教育事業名:じっけん! はっけん! 親子でしぜんたいけん! 冬

期間 令和4年 12月 17日(土)～18日(日)

対象及び参加人数: 幼児または小学生とその家族 9家族 28名

目的:

- ・ 幼児、小学生およびその家族に、自然体験活動や科学実験の機会を提供する。
- ・ 自然体験や科学実験の楽しさを味わう

事業概要:

- ・ 保護者を対象に体験活動の意義や効果に関する講話を行い、体験活動の普及啓発を行う。
- ・ 幼児・小学生およびその家族に、星座観察の体験の機会を提供する。
- ・ 幼児・小学生およびその家族に、科学の不思議さや面白さを感じられる科学実験の体験を提供する。
- ・ 活動を通して家族のきずなを深める機会を提供する。

【講師】

- ・ 保護者向け講話 小林朋広 (国立妙高青少年自然の家所長)
- ・ 科学実験ショー 永井克行氏 (上越科学館長)
- ・ 星座観察 稲葉浩一氏 (NPO 法人妙高山麓自然体験活動指導者会)
- ・ 親子で科学実験 鹿島真由美 (国立妙高青少年自然の家職員)

成果:

保護者向け講話で幼少期における体験活動の大切さについて話し、熱心にメモをとる方がいた。

実験ショーでは、上越科学館の永井館長から日常で体験できない大人も子どももワクワクするようなダイナミックな実験を行っていただいた。永井館長のブーメランの巧みな技や、ドライアイスと液体窒素を使った不思議な現象は子どもたちだけでなく、大人も夢中になる実験ショーだった。

星座観察は天候が悪かったので、12月に見られる星の話を室内で聞いたが、星への興味関心を高めた。

科学実験は身近な材料を使うことで、家庭でも再チャレンジできる内容にした。また、幼児から小学生まで安全に楽しめる実験、親子で協力し合うことができるような実験にした。



実験ショー



星座観察 (星のお話)



親子で科学実験

課題:

曇天で実際の星空を見ることができなかったので、天候に左右される自然観察の難しさを感じた。科学実験は季節を問わず実施できるが、自然観察の楽しさを味わってもらうには外に出て活動できる時期に行くとよかった。